

(2) 実験授業の結果と考察

① 観察の視点

本時の授業の重点内容は、カバーの目的に応じた布地・形・大きさの選択である。①布地の選択については、布地のどんな性質に着目したか。それはカバーの目的に合っているか。②形は、大きさに合わせて使いやすく作るという課題に合っているか。③布の大きさは、寸法にゆりみやぬいしろをつけて考えられたか。この3点を中心として授業の記録をとる。教師や児童相互の働きかけをとらえるために、

発問と応答を記録し、児童の思考の変容をとらえるために、個人別の記録カードを用いる。また、ABC各タイプからの抽出児童を観察し、細部にわたる反応の観察をする。板書や資料の記録もとって、思考の深まりとの関連を調査した。

② 児童の思考過程の実際と考察

㊦ 布地の選択について

布地標本の観察により考えさせた結果、選択した布地は、全員もめんであった。選択した理由についての考察は、下記の通りである。

教師の予想反応

- ・ じょうぶである。
- ・ 汗や汚れをすいとる。
- ・ 洗たくに強い。

	始めの考え	学習活動	つけ加えたところ
A児	○水分をすいとりやすい。 ○はだざわりがよい。 ○洗いやすい。 ○安い	○布地標本を再度観察する。 (もめん・毛・ポリエステル) ○話し合いをする。(出た項目) ・ 洗たくしやすさ	○じょうぶである。 ○ぬいやすい。
B児	○汗などをすいとる。 ○じょうぶだから	・ はだざわりのよさ ・ 汗をすいとること。 ・ 価格 ・ ぬいやすさ	○洗たくに強い。 ○汗をすいとる。 ○やわらかい。(手ざわり)
C児	○はだざわりがいいから	(※3人とも挙手し、B児が発言) ○考えを修正する。	○洗たくに強い。 ○汗をすいとる。 ○やわらかい。

- 児童は、既習の洗たく学習の知識と、標本の手ざわりを手がかりに考えていた。標本の提示が効果的であった。
- A児は、既習の知識とともに、価格についての実用面をあげている。
- C児は、既習事項が定着しておらず、標本による具体物を通しての思考だけに終わっている。共同思考により修正はしたが、知識の

定着の悪さが、次にも影響を及ぼそうである。

- この活動を通して、更にふじゅうぶんだったD児は、同じ綿であるサラシとブロードを区別して理解することができず、失敗した結果となった。教師は、2つの布の共通点と相違点を、きめこまかく指導する必要があると反省している。